

平成22年11月24日

水産庁

独立行政法人 水産総合研究センター

平成22年度日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

—別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果—

今後の見通し（2010年11月～2011年3月）のポイント

漁況（来遊量）

さば類（島根県～新潟県）

前年を下回る。

マアジ（島根県～新潟県）

前年並み。

マイワシ（島根県～新潟県）

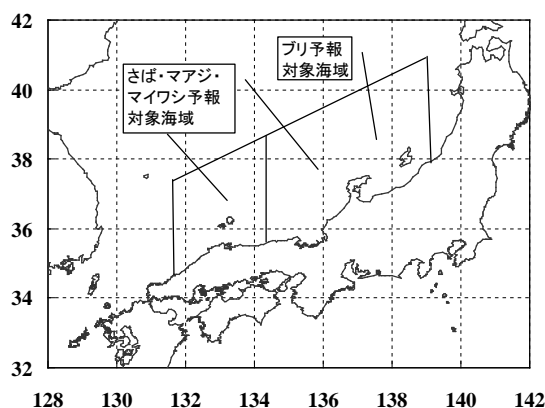
低調に推移する。

ブリ（兵庫県～新潟県）

0歳魚は前年を下回る。

1歳魚は前年を下回る。

2歳魚以上は前年を上回る。



※「前年」は2009年11月～2010年3月を示す。

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 香川、今井

電話：03-3502-8111（内線 6800）、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

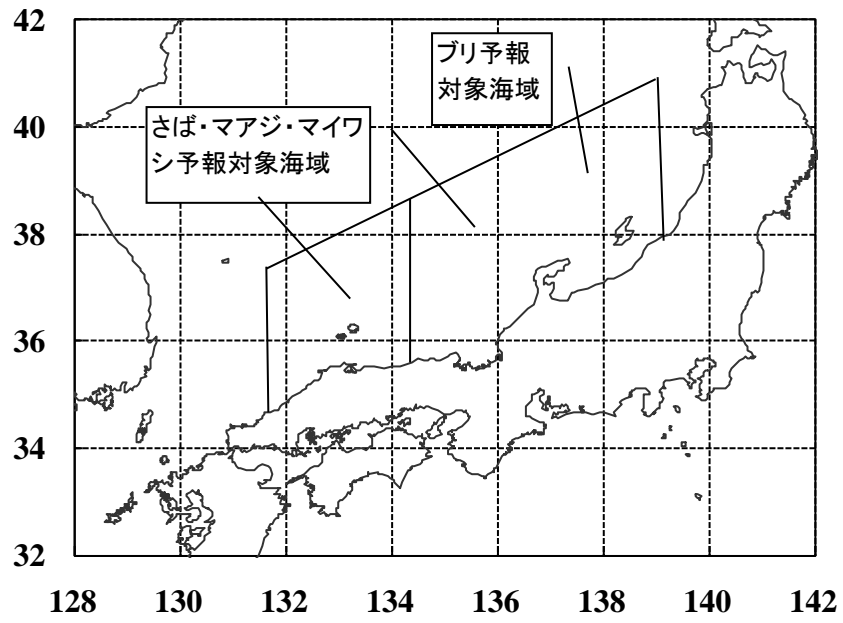
独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



予報対象海域

日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2010年11月～2011年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）
日本海西部海域では、来遊量は前年を下回る。中部以北の沿岸域では、前年並みの来遊となる。
2. マアジ（島根県～新潟県）
0歳（2010年級）と1歳魚（2009年級）を主体とした漁獲がみられ、来遊量は前年並みである。
3. マイワシ（島根県～新潟県）
マイワシの来遊は引き続き低調に推移し、漁獲は散発的になる。
4. ブリ（兵庫県～新潟県）
各年級の来遊は以下のとおり予想される。
0歳魚（2010年級）：前年を下回る。
1歳魚（2009年級）：前年を下回る。
2歳魚以上（2008年およびそれ以前の年級）：前年を上回る。

漁況の経過（2010年1～9月）、および今後の見通し

1. さば類（図1,2）

●2010年1～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系資源の一部で、その動向は東シナ海域と密接に関わっている。過去5か年（2005～2009年）の日本海主要港（島根県～新潟県）におけるさば類の漁獲量は21,000～32,000トンであり、増加傾向を示している。

2010年1～9月における日本海主要港（島根県～新潟県）の水揚量は約8,600トンで、前年同期（13,500トン）および過去5か年平均（12,200トン）を下回った。府県別では、全体に占める割合が大きい鳥取県および島根県（まき網）がほとんどの月で好調の前年を下回ったものの、2008年と同程度に推移した。全体に占める鳥取県と島根県の割合は67%（5,800トン）で、過去5か年平均の約50%を上回った。

一方、中部以北海域におけるまき網（主体は石川県および新潟県）の漁獲量は 2001 年の 7,800 トンから 2004 年の 3,400 トンにまで減少した後、2005～2008 年には 4,600 ～7,900 トンに増加したが、2009 年の漁獲量は 2,100 トンと大きく減少した。2010 年 1～9 月の漁獲量は 1,800 トンで、前年同期（1,100 トン）を上回ったが、過去 5 か年平均（3,300 トン）を大きく下回り低調に推移した。また定置網（兵庫県以北）の漁獲量は 2001 年以降増加傾向にあったが、2007 年に大きく減少した。2010 年 1～9 月の漁獲量は 1,050 トンで、過去 5 か年平均（1,740 トン）を下回ったものの、前年同期の 1,090 トンと同程度であった。

●資源状態と年級の豊度

対馬暖流系におけるマサバの資源量は、1992～1996 年に増加傾向にあったが、1997 年に急減し、1999～2007 年は低い水準で横ばい傾向にあった。2008 年の加入量がやや高いため、2008 年の資源量は増加し、中位水準に回復したと考えられる。2008 年級の豊度は 2007 年級より高く、2009 年級の豊度は 2008 年級より低いとみられる。2010 年級の評価は難しいが、漁況経過から 2009 年級と同程度と予測されている。これらのことから、0 歳魚（2010 年級）は前年並み、1 歳魚（2009 年級）は前年を下回り、2 歳魚（2008 年級）は前年を上回ると考えられる（西海区水産研究所「平成 22 年度第 1 回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」より）。

●今後の見通しについて

日本海の漁獲量は、例年、西部海域のまき網の占める割合が大きく、0 歳と 1 歳が漁獲の主体である。0 歳魚（2010 年級）および 1 歳魚（2009 年級）の豊度がそれぞれ前年並みおよび前年を下回ると考えられることから、西部海域への来遊量は前年を下回るとみられる。また中部以北海域における定置網の漁況も低調であることから、中部以北沿岸域への来遊量は低調の前年並みと考えられる。

以上のように、西部海域への来遊量が前年を下回り、中部以北沿岸域への来遊量が前年並みと判断されたが、日本海の漁獲量は、西部海域のまき網が主体となっているので、

全体への来遊量は前年を下回ると考えられる。

2. マアジ (図 3~5)

●2010 年 1~9 月の経過

2001~2009 年における島根県~新潟県の主要港の水揚げ量は 39,600~67,700 トンでほぼ横ばい傾向であった。2010 年 1~9 月の漁獲量は 21,800 トンで、前年同期の 41,300 トンおよび過去 5 年 (2005~2009 年) 平均 (35,800 トン) を大きく下回った。月別では 3 月以外前年を大きく下回り低調に推移した。

●資源状態と年級の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系資源の一部であり、その動向は対馬暖流系群の資源状態と密接に関わっている。対馬暖流系群における 2009 年級 (1 歳魚) の豊度は 2008 年級 (2 歳魚) を上回ると考えられる。また、2010 年級の豊度は稚仔魚および幼稚魚分布調査などから 2009 年級と同程度か下回ると考えられる (西海区水産研究所「平成 22 年度第 1 回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」より)。

●今後の見通しについて

日本海区水産研究所、鳥取県および島根県が共同で毎年 5~7 月に日本海西部海域でマアジの新規加入量調査を行っている。この調査の中層トロールによるマアジ幼魚の採集数と水温分布から求めたマアジの加入量指数 (来遊量の多さ) は、来遊量の多かった 2003 年を 1 とすると、2010 年は 2.0 で、前年 (1.26) を上回り、2003 年の調査開始以来の最高値となった。推定されたマアジ幼魚の加入量指数は、境港におけるまき網 1 ヶ統あたりの 0 歳魚の漁獲尾数とある程度対応関係が見られるので、日本海西部海域における 0 歳の来遊量は前年並みか上回ると考えられる。

11~3 月における日本海の漁獲量は、例年、0 歳と 1 歳が漁獲の主体で、2 歳魚以上も漁獲される。対馬暖流系群における 1 歳魚 (2009 年級) の豊度は前年を上回ること、および日本海へのマアジ 0 歳魚の加入量指数 (2010 年級) が高水準であることから、マ

アジの来遊量は好調の前年並みと考えられる。

3. マイワシ (図 6, 7)

●2010年1～9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は1990年代に著しく減少したが、2001年以降には増加傾向を示している。2010年1～9月における日本海主要港（島根県～新潟県）への水揚量は約3,600トン、過去5か年（2005～2009年）平均（3,400トン）をやや上回ったが、前年同期の5,600トンを下回り、その漁獲は依然散発的で低水準にとどまっている。漁獲の内訳は鳥取県と島根県のまき網による漁獲量が3,400トンで全体の約94%を占めた。5月に2,000トンを超える漁獲がみられたが、それ以外は低調に推移した。

●資源状態と今後の見通し

漁獲量は増加傾向にあるが、マイワシ資源は極めて低位の状態が続いており、1～9月の漁況経過が低調であったことから、今後の来遊量は低調に推移し、漁獲は散発的になると考えられる。

4. ブリ (図 8, 9, 10)

●2010年1～9月の経過

2000～2009年における兵庫県～新潟県の主要定置網の漁獲量は4,900～8,500トンであった。2010年1～9月における漁獲量は5,270トンであり、前年同期（4,900トン）および過去5か年（2005～2009年）平均（5,000トン）をやや上回った。1月と7～9月では前年を下回ったが、他の月では前年をやや上回って推移した。

年齢別の漁況経過をみると、兵庫県～新潟県における0歳魚の漁況は低調に推移した。1～9月の漁獲量は1,120トンで、同期間における前年（1,450トン）および過去5か年平均（2,060トン）を大きく下回った。2010年級の加入による7～9月の漁獲量も前年を大きく下回り低調に推移した。1歳魚（2009年級）の漁獲量は2,060トンで、同期間における前年の2,150トンをやや下回ったが、過去5か年平均（1,700トン）を上回っ

た。以上は定置網の漁獲状況であるが、まき網では 6～10 月における境港の漁獲量は 11,700 トン（速報値）で前年同期の 3,200 トンを大きく上回り、その大部分が 1 歳魚と見られる。2 歳魚以上（2008 年級および 2007 年以前の年級）の漁獲量は 2,080 トンで、同期間における前年の 1,320 トンおよび過去 5 か年平均（1,280 トン）を大きく上回った。このように、0 歳魚と 1 歳魚の漁況が低調であったが、2 歳魚以上の漁獲量は堅調に推移した。

●資源状態と年級の豊度および今後の見通しについて

ブリの資源水準は 1990 年代以降安定し、海洋環境もブリの来遊に好適である。6～9 月までの 0 歳魚（2010 年級）の漁況が前年および 2008 年の同期を大きく下回ったことから、0 歳魚の来遊量は前年を下回ると考えられる。2009 年における日本海中北部の定置網の 0 歳漁獲尾数が前年より減少していること（「H22 年度ブリの資源評価」より）および 2010 年 1～9 月における 1 歳魚の漁模様が前年を下回ったことから、2009 年級（1 歳魚）の資源水準は前年を下回ると判断される。また、1 歳魚以上の漁獲量は相応する発生年級群の 0 歳の漁獲量と相関関係が見られることから、1 歳魚の来遊量は前年を下回ると考えられる。2 歳魚以上（2008 年級以上）の来遊量は漁模様から前年を上回ると判断される。

なお、まき網を含む全漁業による 1 歳魚の漁獲割合が高い可能性があり、この場合 2009 年級の残存資源量を減少させることが考えられる。

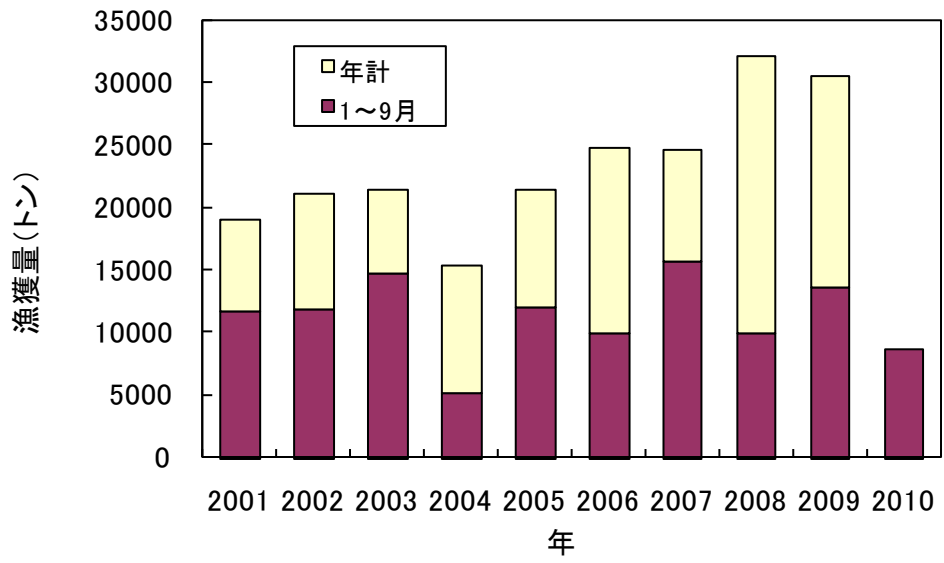


図1 さば類の漁獲量の経年変化(島根県~新潟県、2010年は9月まで)

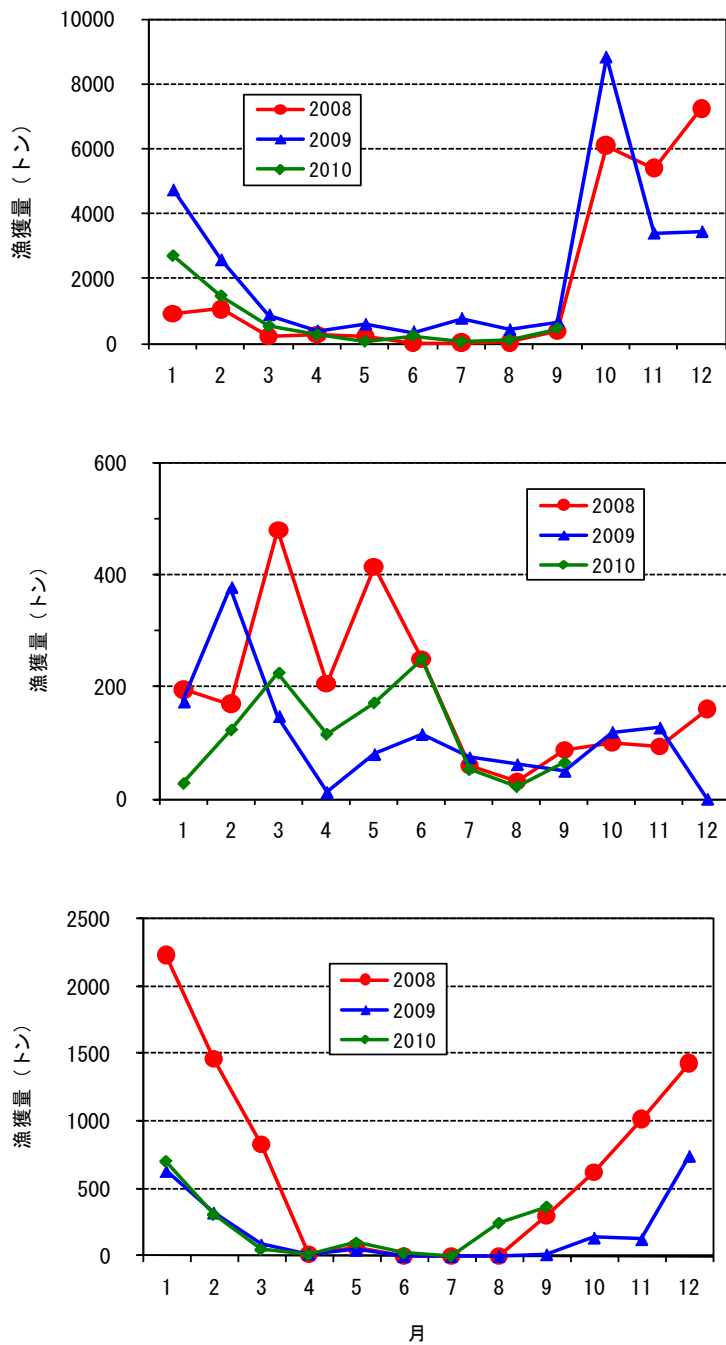


図2 さば類の月別漁獲量の推移（2008-2010年、2010年は9月まで）

上：島根県～鳥取県（まき網）

中：兵庫県～新潟県（定置網）

下：兵庫県～新潟県（まき網：定置網以外を集計）

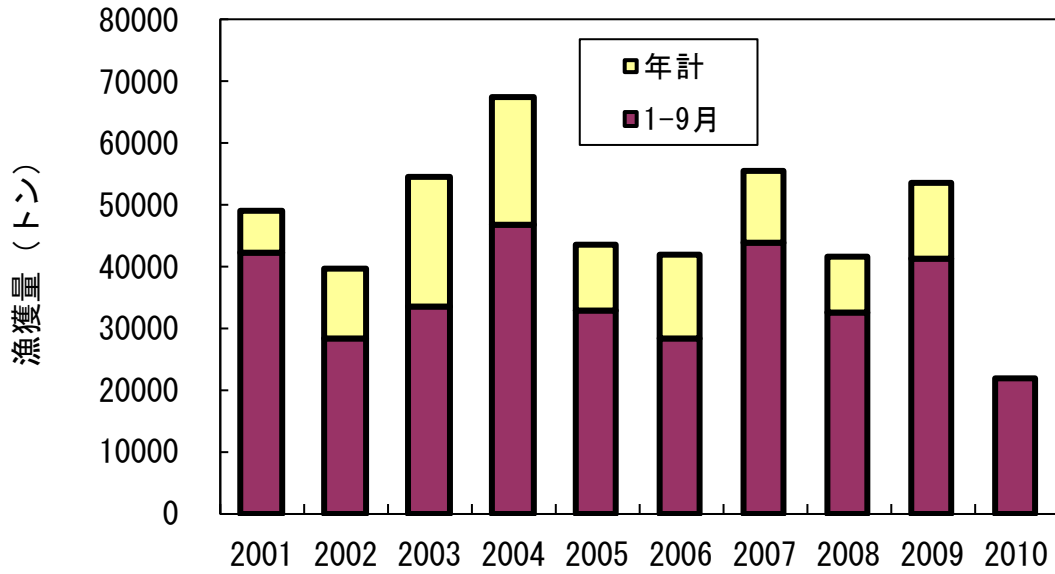


図3 マアジの漁獲量の経年変化(島根県～新潟県、2010年は9月まで)

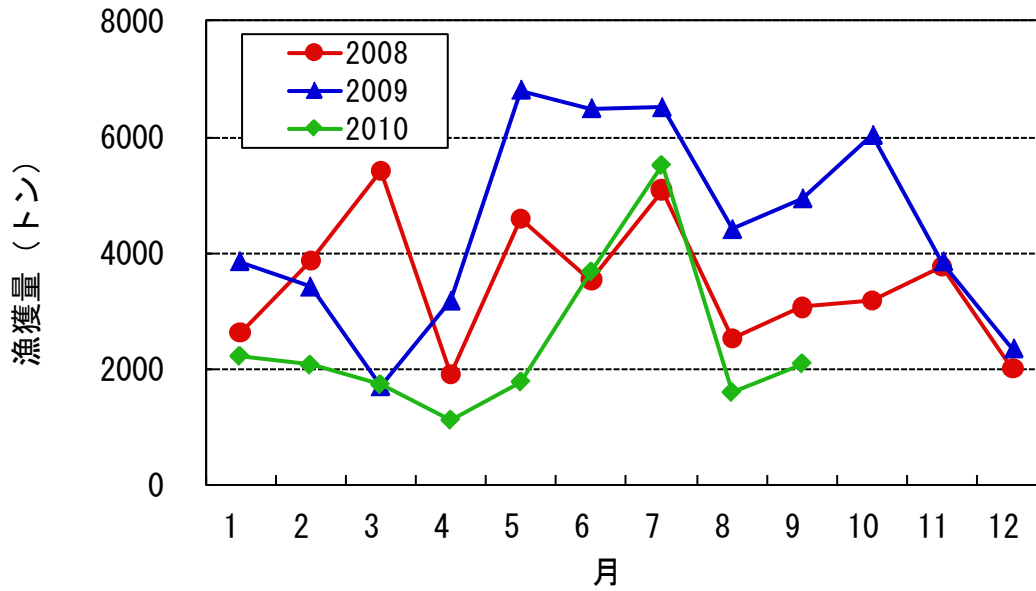


図4 マアジの月別漁獲量の推移(2008-2010年、2010年は9月まで)

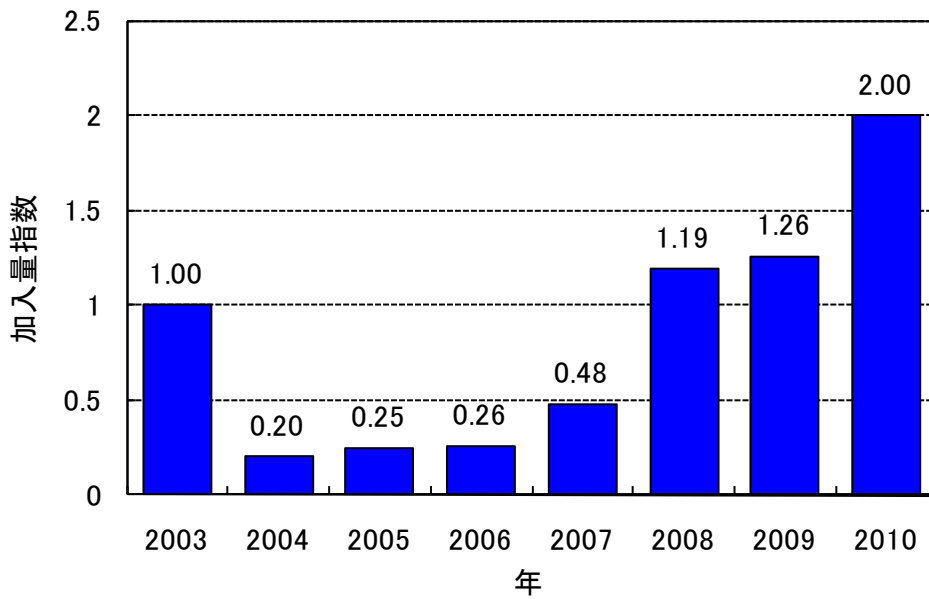


図5 トロール調査によるマアジ幼魚の採集数と水温分布から算出されたマアジ加入量指数の経年変化（2003年を1とした）

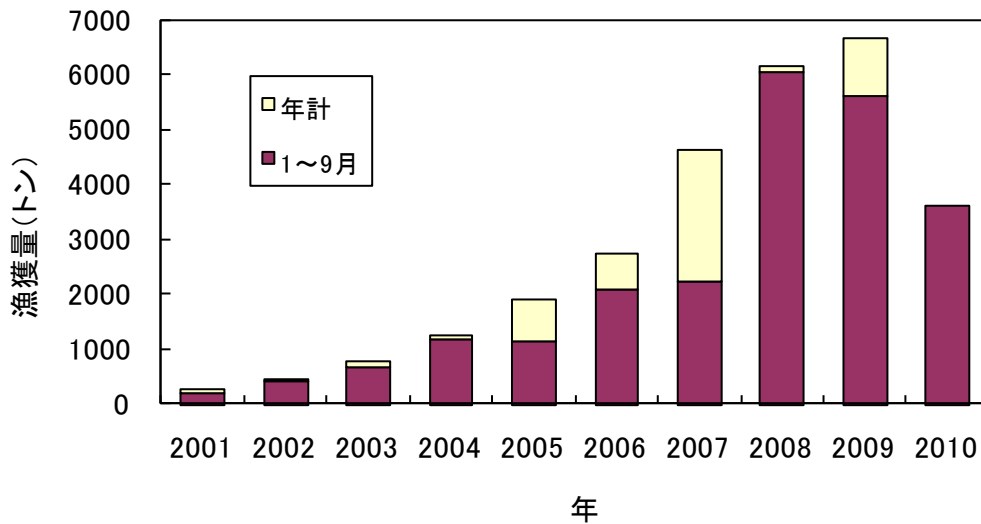


図6 マイワシの漁獲量の経年変化（島根県～新潟県、2010年は9月まで）

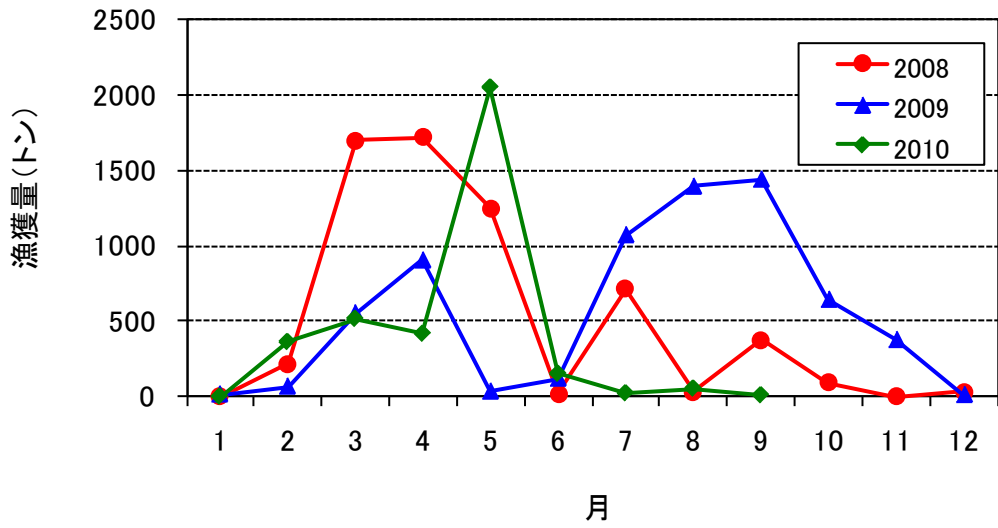


図7 マイワシの月別漁獲量の推移 (2008-2010年、2010年は9月まで)

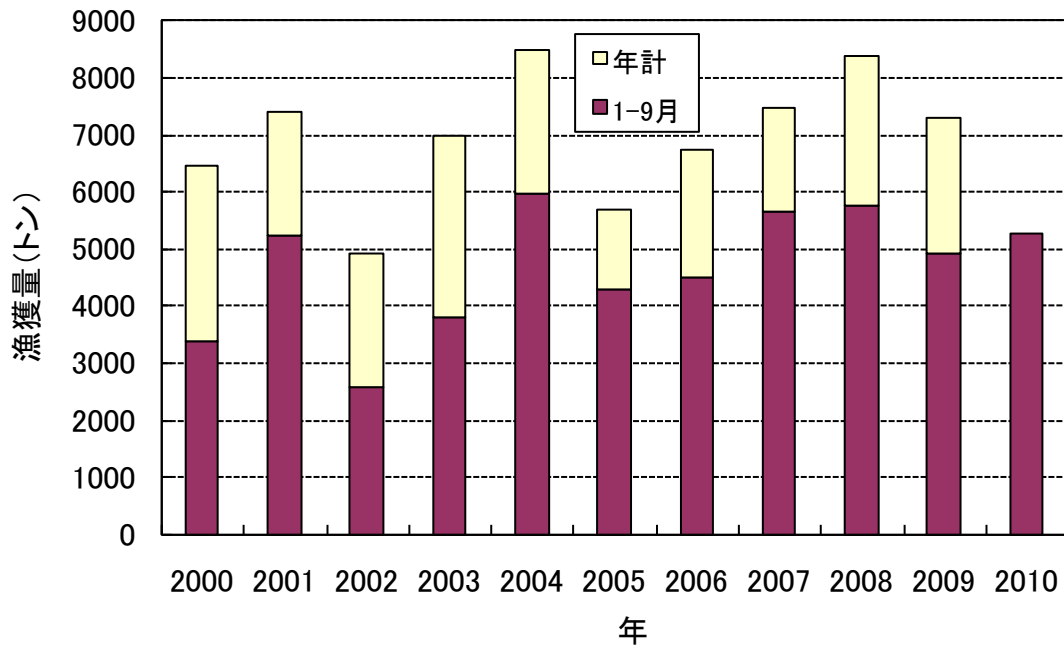


図8 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網漁獲量経年変化 (2010年は9月まで)

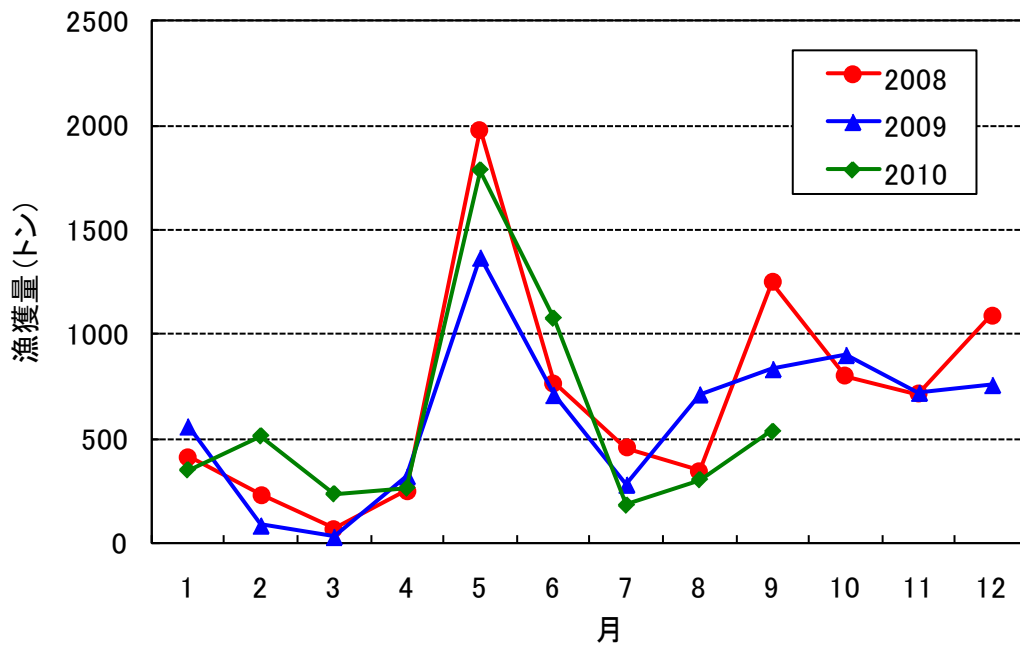


図9 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網月別漁獲量

(2008-2010年、2010年は9月まで)

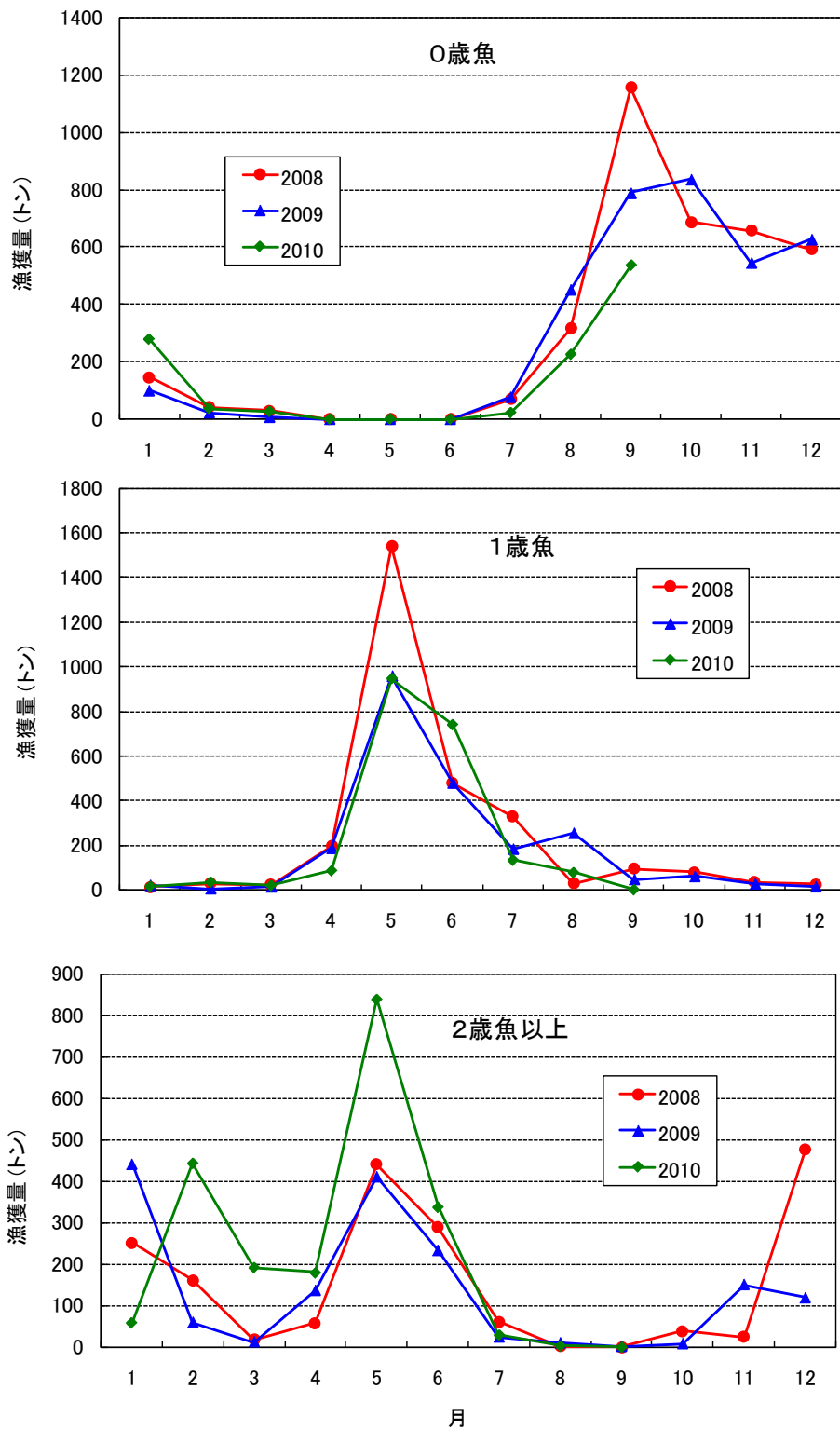


図 10 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網の年齢別月別漁獲量
(2008-2010年、2010年は9月まで)

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所 日本海区水産研究所